

# 令和6年度第3回村山地域保健医療協議会（村山地域医療構想調整会議）議事概要

【開催日時】 令和7年3月10日（月） 午後6時30分から午後7時50分まで

【開催方法】 オンライン開催（Zoom ミーティング）  
事務局会場 村山保健所大会議室

## 【出席者】

出席者名簿のとおり

※委員 36名のうち 34名出席（うち代理出席 7名）

## 【内容】

### 1 開会

### 2 あいさつ（山形県村山総合支庁保健福祉環境部 大瀧部長）

### 3 会長、副会長の選出

大瀧保健福祉環境部長を仮議長として、委員の互選により、会長には山形市医師会長の金谷委員、副会長には北村山地区医師会長の高橋委員を選出。

### 4 報告

#### （1）在宅医療専門部会の開催状況

事務局から資料1により説明。意見、質疑等は特に無し。

#### （2）病床機能調整ワーキングの開催状況

座長を務めた村山保健所長 藤井委員から資料2により説明。意見、質疑等は特に無し。

### 5 協議

#### （1）地域医療構想の検証等について

- ・村山地域の病床数の推移等
- ・病床利用率の状況

#### （2）地域医療構想の推進に関する意向調査（R6.10月）

- ・将来の機能別病床数、自院の役割、診療機能
- ・非稼働病棟への対応

事務局から資料3・4により説明。また、出席した各病院長より、自院の今後の対応方針や将来を見据えた自院の診療機能等について説明。

必要病床数との間には依然として乖離があるが、今後も本協議会や病床機能調整ワーキング会議を通じて議論を進め乖離の縮小を図っていくこととし、各医療機関の対応方針である「地域医療構想の推進に関する意向調査」の結果については、地域医療構想との整合性が図られており、今後は令和7年度末までに対応方針100%実施を目指して、各医療機関の取組みを進めることを確認・合意した。

#### 【主な意見・質疑】

- ・ 複数の病院でスタッフ、特に夜勤可能な看護師の不足が大きな課題で、休棟や病床利用率の低下等につながっており、一部の病院は新たな休棟や病床削減を検討している状況。
- ・ ある程度の病床数を維持しないとスタッフの人数を維持できない。ただ数字を減らした病院が良いということではなく、地域住民の拠り所となる病院の病床数は数字だけで議論できない。

- ・ 病床は100%利用されれば良いというものではなく、ある程度余力を持つことが必要。
- ・ 新たな地域医療構想では、在宅医療を取り込んでいくことが求められている。介護施設や在宅医療側の意向、意識を調査するとともに、病院も入院機能だけに特化するのではなく、地域全体の医療を担うためには医療人材が必要である旨強く訴えていく必要がある。
- ・ 民間も含めて、病院経営はどこも厳しい状況。診療報酬改定が財務省に縛られている状況では、今後地方は立ち行かなくなってしまう。

(山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 村上教授)

- ・ ある程度ゆとりを持った医療体制は必要だが、現在の許可病床数が実際の患者数に応じて適正なのか考えなくてはいけない。
- ・ 比較的軽症・中等症で急性期の専門的治療を必要としない患者が急性期として報告されているために急性期と回復期の病床数に差異が生じるので、「軽症等救急」で急性期と報告されている病床がどのくらいあるか整理すべき。
- ・ 病院経営に関しては、診療報酬改定でどれだけ物価賃金の上昇を反映できるかが重要。

### (3) 紹介受診重点医療機関の設定について

事務局から資料5により説明。

一部基準（初診に占める重点外来の割合）を満たしていない病院について、参考指標（紹介率及び逆紹介率）を元に協議し、引き続き紹介受診重点医療機関として設定・公表することを合意した。

## 5 その他

### (1) 病床数適正化支援事業の概要

#### ○村山保健所保健企画課 岡部課長

県医療政策課より、厚生労働省の令和6年度補正予算事業「病床数適正化支援事業」の概要について説明。

## 6 閉会